

△期（一般）

令和四年度 武蔵野大学 専攻科

受験番号

□	□	□	□	□
□	□	□	□	□

氏名

言語聴覚士養成課程

入学試験問題

（三月六日）

「国語総合」

【】次の文章を読んで、以下の問いに答えなさい。

言葉が登場するまで、人類のコミュニケーションはしぐさと音声による全体的な表現だった。類人猿と同じように、対面コミュニケーションは相手の感情を読み、相手を操作するうえで重要であるが、目がその大きな役割を担っている。人間の目は眼裂が横長で、白目と虹彩の色がちがいで、目の動きがはっきりわかる。東京工業大学の小林洋美と幸島司郎は、人間以外の霊長類では眼裂が丸いことが多く、白目と虹彩の色の区別がつきにくいことを指摘している。人間の眼裂が横長なのは、地上で暮らすようになって水平方向の視野を広げる必要があったからだし、白目の部分が大きくめだつのは、目の動きによって相手の感情を読む仕組みが発達したからだという。

たしかに、ゴリラやチンパンジーは対面するとき、相手の目がみえなくなるような距離まで顔を近づける。目は黒っぽい茶色で、白目の部分がなく、という距離からみても目の動きはわからない。彼らは目の動きではなく、顔と視線を合わせることで相手の気持ちを操作しようとしているにちがいない。

ところが①人間は、一々ニメートルの距離をおいて対面する。会話をしたり食事をしたるときは長時間向かい合った姿勢をとるのがふつうだ。これは話をしたり食事をしたときに相手の顔をみることに重要であることを示している。向かい合うのは言葉によって情報を伝え合うために不可欠な姿勢ではない。事実、現在の私たちは電話やメールを用いて対面しなくても情報を伝え合うことができる。向かい合うのは対話や会話が感情の交流を必要としているからである。それは言葉だけではむずかしい。視覚的なコミュニケーションによって、とりわけ目の動きによってそれを読まなければならない。

ひよっとしたら言葉の始まりは情報交換ではなく、対面姿勢を長く続けることに意味があったのかもしれない。食事の場合も同様である。人間以外の霊長類ではけんかの源泉であった食物を、人間はわざわざ挟んで両者が向かい合い、同じ食物に手を伸ばす。これは人間にしかできない行為であり、共食が可能な許し合う間柄であることを前提にして、相手の目の動きを読みながら感情を共有することにつながっている。人間の目はこういった対面の機会を増やしながら、類人猿とちがうコミュニケーションの能力を付与していったのではないだろうか。

しぐさとともに、音楽も人間が言葉以前に発達させたコミュニケーションである。前述したように、音楽は仲間どうしのきずなを強め、一体化する気持ちを高めて協力行動をとるために大いに貢献した。現生人類がアフリカ大陸を出て季節変化の大きい環境へ進出できたのは、音楽による共感力の強化にあったのではないかと思われる。

そこに言葉が加わって、人間のコミュニケーションは大きく変化した。それまであいまいなことしか伝えられなかったしぐさに代わって、言葉ははっきりした意味を伝えることができる。その意味は②時間と空間を超えて伝えられる。昨日起こったことをいましがた起こったことのように、遠い場所で起こったことを目前で起こったことのように表現できる。だから人間は、言葉を用いて自分にとって未知のことを他者の体験から学ぶことができる。また、言葉は世界や社会を比喻によってみる視点を提供し、ものや人を

関係づけて解釈する能力を促進する。なによりも言葉はものごとの原因や結果への関心を助長させて目的意識を高める効果がある。そのため言葉は、農耕や牧畜のような遅延収穫システムが登場したとき、収穫の善し悪しの原因を過去にさかのぼって問い、その方法を改善し、新たな目標を立てる思考様式を推進したと思われるのである。

そして、それまでコミュニケーションの主流となっていた音楽と言葉が結びついたとき、人と人との感情の共有が目的意識に結びつくようになった。ホモエレクトルスでもネアンデルタール人でもサピエンスの狩猟採集民でも、音楽はほかの仲間との境界を消して喜びや悲しみの感情を分かち合うものだった。それは結果的に人々の連帯意識を高め、分業や共同作業を推進しただろう。しかし、もともと音楽はそういった目的意識にもとづいて、歌ったり奏でられたりしたのではなく、純粹に感情の共有をめざしたものだ。たはずだ。それが言葉と合体したとき、意味が付与され、目的をもって歌われるようになったにちがいない。

(中略)

言葉が音楽と結びついたのは、言葉がまだできて日が浅いコミュニケーションであるからだ。情報を伝えるには便利だが、人々を信頼させ連帯させる力はない。視覚や接触に頼るコミュニケーションのほうが心を動かす力は強く、意味を含まない音楽のほうが感情に訴える効果は大きいのである。たんに言葉と交わすより、みつめ合い、手を握り、肩を組み、抱き合うほうが感情は強く伝わるし、相手の心に訴える効果は大きい。だから、言葉を用いて相手との関係づくりをする場合には、相手の顔をみたり声を聞いたりしながら対話や会話を行うことが不可欠だったのである。

文字は言葉を化石化し、繰り返しや保存を可能にする耐久性の高い装置である。最初の文字はいまから五五〇〇年前の西南アジアに楔形文字として登場した。しかし、文字は粘土板、皮、紙といった媒体に記されて利用されたので、声による会話ほどすばやく相手に伝えられる手軽な手段ではなかった。むしろ、所有や交換のための証文や、共同作業の分担や手順を明確化するマニュアルとして用いられたのだろうと考えられる。やがて文字はできごとを記録し、歴史を編纂するために使われ、手紙や通達として直接声の届かない相手へ^③時間と空間を超えて伝える手段となった。

しかし、近年になると言葉の役割は大きく変わった。通信技術の進歩によって遠距離のコミュニケーションが可能になると、言葉の主たる目的は情報の伝達となり、信頼や関係づくりではなくなった。近年のインターネットや携帯電話の普及は^④その傾向に拍車をかけた。グーグルやヤフーなど巨大なデータベースがあつて、その内容はつねに更新されている。世界のできごとを伝える多様なニュースに無料でアクセスでき、キーワード検索を使って自分が知りたい情報を簡単に得られる。チャットやフェイスブックをつうじて自分の好む相手とめぐりあい、会話を楽しむことも可能だ。必要ならスカイプなどを駆使して相手の映像を同時発信でみることができ。こういった多様な方法で情報取得や会話が可能になると、それに時間をかけることがやっかいに思えてくる。会って話ができる距離にいても、会わずに携帯電話を用いて話をする人が増えるのは当然の帰結といえる。その結果、対面して話をする機会は減少し、ひきこもりという新たな生活スタイルが登場した。相手の目の動きを手がかりにして心の動きを読む能力も失われつつあるのではないかと思う。

現代の人間に対面コミュニケーションが必要なくなったというわけではない。これは現代の科学技術が人々の負担を減らし、効率のよい生活設計のなかで自由な時間を広げようとした結果なのだ。近代日本を象徴する三種の神器（白黒テレビ、冷蔵庫、洗濯機）は家電製品の爆発的流行をもたらした。それまで多くの労力と時間をかけてきた家事が短時間で行えるようになり、食事やその前後の団らんのなかで交わされていた情報交換の役割をテレビが担うようになった。その後、つぎつぎに新しい電化製品が登場し、人々の生活は便利になった。電子レンジや食器自動洗い機などが登場して家事の時間はますます節約され、建築技術や冷暖房機器の改良によって居住空間は密閉されて快適になり、外界と隔絶されるようになった。

コンビニエンスストアやファーストフードの店があちこちにできたおかげで、いつでも好きなときに簡単に食事ができ、必要なものはなんでも手軽に入手できるようになった。自家用自動車をだれもが手に入れられる時代になり、気の合った仲間と好きなときに、他者に気兼ねすることなく自由に移動できるようになった。ちよつと前までなにをするにも人々にたずね、協力を仰ぎ、他者の目を気にしながら時間をかけて行っていた作業を、自分の都合を第一に考慮しながら自分で決定できるようになったのである。なんとこの自由な世の中になったことか。

しかし半面、それは^⑥人間が数百万年をかけて培ってきた重要な能力や社会性を失わせる結果をもたらしているのではないだろうか。長い狩猟採集生活のなかで発達させた「分かち合い」の精神は、農耕や牧畜の社会になっても食の共同をつうじて生き残ってきた。信頼できる仲間と毎日顔を合わせることで、心のきずなは保たれてきた。だが、現代はだれとも顔を合わせなくても、言葉を交わさなくても生きていける。通信販売で必要なものはすべて手に入るし、近くのコンビニエンスストアで目的の品を無言でレジへもっていけば、言葉を発することなく購入できる。

パソコンを開けば、そこには無限の世界が広がっている。会ったこともなく、名前も知らない相手と親密な対話ができるし、自分の経歴や身分を明かさずにつきあうことができる。同好の仲間を集めてグループをつくり、顔を合わせないままにインターネットのなかで会話を楽しむことができる。ギャンブルや投資も可能で、一步も部屋から出ないでお金を稼ぐことができる。インターネット上に意見を書き込んだり、選挙の投票も可能なので、政治活動にも主体的に参加することができる。二〇世紀末の東欧諸国やソ連の崩壊は、ラジオや電話などの通信手段が果たした役割が大きかった。独裁政権がいかに厳格な報道管制を敷いても、人々はラジオによって他国の放送を聞き、政府の実態を知っていたのである。^⑥最近のイスラム世界で起こっている政治運動は、インターネットによるよびかけと携帯電話による発信が引き起こしたものである。所在不明の場所から一斉配信ができ、ばらばらになっている多くの人々が即座に情報を交換できたからこそ、影響力のある指導者がいなくても大きな連帯行動が可能になったのだ。言葉はもはや生身の体とは離れて人々を動かすようになっていく。

『家族進化論』 山極寿一、東京大学出版会 二〇一二年より 一部改変

問一 傍線部① 人間は、一〇メートルの距離を^①おいて対面する」のはなぜか。文中の語を用いて三〇字程度で説明しなさい。

問二 傍線部②と傍線部③について、傍線部③にのみ含有されている点は何か、三〇字程度で説明しなさい。

問三 傍線部④ その傾向」とはどのような傾向か。文中の言葉を用いて四〇字程度で説明しなさい。

問四 傍線部⑤ 人間が数百万年をかけて培ってきた重要な能力」とはどのような能力か。五〇字程度で説明しなさい。

問五 傍線部⑥ 最近のイスラム世界で起」っている政治運動」の名称を答えなさい。

【一】カタカナ(傍線)の部分漢字で書きなさい。

(一) クジユウの決断をする。

(二) 産業をオコす。

(三) 過去をセイサンする。

(四) 君はリーダーとしてテキカクだ。

(五) このままでは敗北はヒツんだ。

(六) 彼はキリスト教のデンドウシだ。

(七) ヒキンな例を挙げる。

【二】次の四字熟語の読みをひらがなで書きなさい。

(一) 融通無碍

(二) 欣求浄土

(三) 隔靴搔痒

(四) 乾坤一擲

(五) 玉石混淆

(六) 侃々諤々

【三】次の熟語の反対語を漢字で書きなさい。

(一) 巧妙

(二) 過激

(三) 露骨

(四) 膨張

(五) 軽率

【四】次の言葉の意味を簡単に説明しなさい。

(一) 鬼籍に入る

(二) 陥穽

(三) パラダイム